



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/29 (月)				昭和の日			欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (4月) 欧: ユーロ圏景況感指数 (4月)
4/30 (火)	▲ 900	+ 3,000	+ 2,100		CP等買入 ▲ 1,300 国債補完供給 + 32,400	CP等買入 + 4,000	日: 有効求人倍率 (3月) 日: 鉱工業生産 (3月) 米: FOMC 欧: ユーロ圏GDP (1Q)
5/1 (水)	▲ 1,000	▲ 23,000	▲ 24,000	国債発行償還 (2年)	共通担保 ▲ 7,000		米: FOMC・パウエルFRB議長会見 米: ADP雇用統計 (4月) 米: ISM製造業景況指数 (4月)
5/2 (木)	トン	▲ 33,000	▲ 33,000	法人税・消費税・保険揚げ			日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月18・19日分) 米: 貿易収支 (3月) 欧: ユーロ圏製造業PMI (4月)
5/3 (金)				憲法記念日			米: 雇用統計 (4月) 米: ISM非製造業総合景況指数 (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、571兆1,700億円から始まった。その後、国債発行、国債買入オペ等の要因により変動し、26日には、573兆6,800億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後も取り手の調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3M物を中心に0.14%~0.20%のレンジで出が見られた。

また、日銀は25・26に開催した金融政策決定会合において、現行の金融政策維持を決定した。

来週の予定は、国内では、5月2日に日銀金融政策決定会合議事要旨 (3月18・19日分) の公表、海外では4月30日・5月1日にFOMC、2日にユーロ圏製造業PMI (4月)、3日に米雇用統計 (4月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.077
1M	0.07 ~ 0.20
2M	0.10 ~ 0.30
3M	0.10 ~ 0.30
6M	0.15 ~ 0.30

<レポ>

足許GC取引は週央まで+0.05%~+0.08%近辺で出合いが見られた。

輪番オペがオフアされた24日は後場に+0.03%近辺まで低下。その後も+0.01%~+0.02%で出合いが見られ、金融政策決定会合2日目となる26日は、後場に▲0.02%~▲0.01%まで低下した。

SC取引は2年438~459回債、5年149~167回債、10年350~374回債、20年180~187回債、30年65~82回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

<CP>

今週の入札発行総額は約21,400億円で、週間償還額の約16,400億円を上回った。発行市場は月末とGW前の資金調達ニーズが重なり、鉄鋼業、石油業、食料品、小売業などで大型案件の発行がみられた。大型案件の発行レートは期間1M物から3M物で0.15%から0.25%近辺での出合いだった。発行残高は先週末時点の22兆8,019億円から4月25日時点で23兆5,501億円に増加した。24日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート0.120% (前回0.100%)、平均落札レート0.154% (前回0.129%)と按分レート・平均落札レート共に前回比で上昇した。

来週の償還額は、約1,900億円となっている。発行市場は、期落ちも少なく、連休前に資金調達を終えた企業がいることから、落ち着いた市場になると予想する。発行レートは、引続き0.10%前半からの出合いが予想される。

<TDB>

今週のTDB入札は実施されなかった。

来週は5月2日に3Mの入札が予定されている。